

2022 年度 大学院入試案内書
東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻

大学院入試担当チーム

E-mail: gsao@civil.t.u-tokyo.ac.jp

社会基盤学専攻 入試情報ページ:

http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/graduate_school/

今後、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、本案内書の内容（必要書類、試験期日、選抜方法等）が変更される可能性があります。変更がある場合は、社会基盤学専攻ウェブページに掲載または出願者にメールで通知します。

社会基盤学専攻では、2020年8月の入試（2021年度）から、筆記試験「社会基盤学」の出題を英語に一本化しました。出題問題には専門用語に和訳を付します。また、試験問題には日本語・英語どちらで解答しても構いません。

2022 年度 大学院入試案内書
東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 修士課程

はじめに

この案内書は、**2022年度 東京大学大学院工学系研究科 修士課程 学生募集要項**の説明を補い、社会基盤学専攻の受験に際して必要な事項を記すものである。社会基盤学専攻の「**大学院入試のオンライン化に関する留意事項**」および社会基盤学専攻のウェブページにも入試関連情報が掲載されている(<http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>)。不明な点はE-mailで下記まで問い合わせること。

東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 入試担当チーム：gsao@civil.t.u-tokyo.ac.jp

2022年度 大学院入学試験は、新型コロナウイルスの流行を受けて、これまでと異なる形式で実施する。以下の説明を注意深く読み、出願および試験の準備を進めるよう心がけること。

試験実施に関する連絡の多くは、受験生へのメールおよび専攻ウェブページで通知される。

1. 選抜方法と日程

修士課程の入学試験は、英語試験、オンライン筆記・口述試験に分けられ、オンライン試験は2021年8月30~31日に行われる。また、オンライン接続テストが2021年8月26日に行われる。入学試験の結果は、2021年9月14日の発表を予定している。

社会基盤学専攻においては、出願日程Bによる試験は実施しない。

1) 入学願書と必要書類の提出

2022年度 東京大学大学院工学系研究科 修士課程 学生募集要項に従って、入学願書を含む「提出書類等」を東京大学大学院工学系研究科に提出（アップロードと郵送）すること。

さらに、社会基盤学専攻の受験には以下を提出する必要がある。①については、工学系研究科に「提出書類等」と一緒に提出（アップロードと郵送）すること。②については、英語能力試験により提出方法が異なるので注意すること。③④については、本案内書の「4. 社会基盤学専攻の受験に必要な追加データの届出」を参照すること。

- ① **「自己推薦書」**：自己推薦書は口述試験評価の参考資料とする。社会基盤学専攻を志望する動機、先端的な学問と研究に取り組むにあたり自己の適正や長所と考えられる点を自己推薦書にまとめて提出すること。様式は本専攻ウェブページからダウンロードできる。
- ② **「英語能力試験の成績証明書」**：英語能力は受験者の提出する TOEFL、IELTS、TOEIC のいずれかの公式スコアで評価する（TOEFL の提出を推奨する）。スコアの提出期限は2021年8月13日必着とする。受験期限は定めない。提出するスコアは2019年9月以降に受験したものに限る。各公式スコアの提出方法を以下に示す。

TOEFL	TOEFL iBT、または TOEFL iBT Home Edition の公式スコアを提出する。スコアの提出方法は、工学系研究科が配布する「大学院入学試験外国語(英語)試験について(TOEFL スコア提出)」の指示に従うこと。社会基盤学専攻では” Test Date Scores” を採用します。 (https://www.t.u-tokyo.ac.jp/shared/admission/data/toefl_2022_ver4.pdf)
IELTS	IELTS Academic、または IELTS Indicator の公式スコアの原本を、工学系研究科に「提出書類等」と一緒に提出（アップロードと郵送）すること。 取得が遅れ、公式スコアを上記「提出書類等」と一緒に郵送できない場合は、社会基盤学専攻 入試担当チーム宛に2021年8月13日必着で提出（アップロード*1と表紙記載の住所に書留郵便で郵送*2）すること。
TOEIC	TOEIC Listening & Reading の公式スコアの原本を、工学系研究科に「提出書類等」と一緒に提出（アップロードと郵送）すること。Institutional Program のスコアも有効である。 取得が遅れ、公式スコアを上記「提出書類等」と一緒に郵送できない場合は、社会基盤学専攻 入試担当チーム宛に2021年8月13日必着で提出（アップロード*1と表紙記載の住所に書留郵便で郵送*2）すること。

*1：社会基盤学専攻へのアップロードサイトは当該受験者に別途通知する。*2：郵送のみ受け付ける。

- ③ 「社会基盤学」で解答する試験分野：筆記試験「社会基盤学」で解答する試験分野を、別表1「社会基盤学の試験分野と出題範囲」に示す6分野から2つ選択し、「4. 社会基盤学専攻の受験に必要な追加データの届出」に従って受付期間内に提出すること。提出後の解答分野変更は認めない。
- ④ 希望する指導教員グループ：入学後に配属を希望する指導教員グループを、別表2「社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表」から選択し、「3. 指導教員グループの希望調査と学生配属ルール」、「4. 社会基盤学専攻の受験に必要な追加データの届出」に従って受付期間内に提出すること。

2) 入学試験科目と日程

英語試験を除く筆記試験（社会基盤学）と口述試験はオンラインで行う。筆記試験は、インターネット上の資料も含め、資料などを閲覧しながら答案を作成することは認める（オープンブック形式）。

オンライン試験中、試験内容について他者と接触・会話・情報交換等を行うことは不正行為とみなす。合格発表後であっても、不正行為の証拠が出てきた場合には合格が取り消される場合もある。

入学試験の科目と試験日程は以下の通りである。オンライン試験会場の URL 等、具体的な試験実施方法については8月中旬までにメール等で通知する。試験科目を全て受験することを合格の条件とする。

試験科目	日時	方法	配点	備考
英語	—	—	300点	TOEFL, IELTS, TOEIC L&R のいずれかの公式スコアを、所定の方法で提出。2021年8月13日必着。 英語試験は TOEFL 点数を基準とする（IELTS, TOEIC から TOEFL への換算方法は社会基盤学専攻のウェブページを参照）
社会基盤学	2021年8月30日(月) 9:00~12:00	オンライン	700点 (350点×2)	事前に届け出た2分野を解答する。 試験当日の選択分野の変更はできない。 8:30までにonline試験室に入室すること。
口述試験	2021年8月31日(火) (面接時間は8月26日のオンライン接続テスト時に通知する)	オンライン	300点	一人10分程度の面接を行う。社会基盤学専攻修士課程での修学に必要な基礎的な学力、適正、希望する研究分野に関する基礎的な能力、資質について問う。

※ 2021年8月26日(木)13時より、オンライン接続テストを行う。試験当日の流れを説明するため、必ず参加すること。

2. 10月入学について

社会基盤学専攻においては、大学(学部)を卒業または2021年9月30日までに卒業見込みの者は、2021年10月の修士課程への入学を申請できる。希望者は、東京大学大学院工学系研究科 修士課程入学願書の該当欄に記入すること。

3. 指導教員グループの希望調査と学生配属ルール

別表2「社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表」から、入学後に希望する専門分野に応じて、配属を希望する指導教員グループを選択する。2021年5月22日(土)に開催する社会基盤学専攻

入試説明会に参加し、配属希望の指導教員グループ選択の参考とすることが望ましい。入試説明会の詳細は専攻ウェブページを参照すること。

「4. 社会基盤学専攻の受験に必要な追加データの届出」に従い、専攻ウェブページにある「**大学院入試（修士課程）追加データ入力票**」で、配属を希望する指導教員グループの順位を第1希望から重複なく記入したものを届け出ること。必ずしも全ての指導教員グループに対して希望順位を記入しなくてもよいが、希望順位を記入した指導教員グループのいずれにも配属できない場合には不合格となるので注意すること。

別表2「**社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表**」に指導教員グループごとの基本定員（最小受入れ学生数）と最大定員（最大受入れ学生数）が示されている。指導教員グループ（以下では単にグループと呼ぶ）への学生配属ルールは次の通りである。

- グループごとに、第1希望の暫定合格者を配属させることを原則とする。ただし、最大定員は超えないものとする。
- 合格者の第1希望で基本定員が充足しないグループがある場合には、まず入学試験の合計点に基づいて暫定合格者を決定する。
- 暫定候補者の第1希望で基本定員が充足しないグループがある場合には、第1希望の合格候補者数／最大定員の値が大きいグループから、基本定員を超える合格者数を減じ、学生の希望を尊重して、各グループの基本定員が満たされるように配属を決定する。
- 希望順位を記入しないグループがあり、かつ希望順位を記入したグループのいずれにも配属できない場合には、不合格とする。その場合、繰り上げ暫定合格者の配属を基本定員が満たされるように決定する。

決定した配属グループは、9月14日に予定される合格発表後に社会基盤学専攻ウェブページに掲示される。指導教員は、配属グループ内で適宜決定される。

4. 社会基盤学専攻の受験に必要な追加データの届出

「東京大学大学院工学系研究科 修士課程 学生募集要項」および「1. 選抜方法と日程 1)入学願書と必要書類に提出」に従って、入学願書を含む「提出書類等」および「自己推薦書」「英語能力試験の成績証明」を提出すること。

さらに、専攻ウェブページにある「**大学院入試（修士課程）追加データ入力票**」をオンラインで下記の受付期間内に提出すること。入力票にアクセスできない場合は入試担当チームにメールすること(gsao@civil.t.u-tokyo.ac.jp)。

受付期間：2021年7月1日（木）7:00 ～ 7月7日（水）23:59 [日本時間]

<追加データの届出内容>

- ・メールアドレス等：試験に関する通知に使用するので、確実に連絡が取れるものを記入すること。
- ・「社会基盤学」で解答する試験分野：6分野から試験当日に解答する2分野を選択する。
- ・教員グループ希望順位

5. 過去の入学試験問題の公開

過去の入学試験問題は本専攻ウェブページで公開している。（注：今年度はオンライン試験であるが、各試験分野の出題範囲に変更はない）

入試関連情報ウェブページ

工学系研究科：<https://www.t.u-tokyo.ac.jp/soe/admission/general.html>

社会基盤学専攻：http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/graduate_school/

2022 年度 大学院入試案内書
東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 博士後期課程

はじめに

この案内書は、**2022年度 東京大学大学院工学系研究科 博士後期課程 学生募集要項**の説明を補い、社会基盤学専攻の受験に際して必要な事項を記すものである。社会基盤学専攻の「**大学院入試のオンライン化に関する留意事項**」および社会基盤学専攻のウェブページにも入試関連情報が掲載されている(<http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>)。不明な点はE-mailで下記まで問い合わせること。

東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 入試担当チーム：gsao@civil.t.u-tokyo.ac.jp

2022年度 大学院入学試験は、新型コロナウイルスの流行を受けて、これまでと異なる形式で実施する。以下の説明を注意深く読み、出願および試験の準備を進めるよう心がけること。

試験実施に関する連絡の多くは、受験生へのメールおよび専攻ウェブページで通知される。

1. 選抜方法と日程

博士後期課程の入学試験は、第1次入学試験（英語試験、オンライン筆記・口述試験）と第2次入学試験（研究発表と質疑）に分けられる。第1次入学試験のオンライン試験は2021年8月30日に行われる。また、オンライン接続テストが2021年8月26日に行われる。第1次入学試験の結果は、2021年9月14日の発表を予定している。

第2次試験の日程は、入学希望時期により異なる。2022年4月入学希望者は2022年1月下旬に実施し、その後に可否を発表する。2021年10月入学希望者は2021年7~8月に実施し、第1次入学試験と同時に可否を発表する。

社会基盤学専攻においては、出願日程Bによる試験は実施しない。

1) 入学願書と必要書類の提出

2022年度 東京大学大学院工学系研究科 博士後期課程 学生募集要項に従って、入学願書を含む「提出書類等」を東京大学大学院工学系研究科に提出（アップロードと郵送）すること。

さらに、社会基盤学専攻の受験には以下を提出する必要がある。①については、工学系研究科に「提出書類等」と一緒に提出（アップロードと郵送）すること。②については、英語能力試験により提出方法が異なるので注意すること。③④⑤については、本案内書の「4. 社会基盤学専攻の受験に必要な追加データの届出」を参照すること。

- ① **「自己推薦書」**：自己推薦書は口述試験評価の参考資料とする。博士課程を志望する動機、先端的な学問と研究に取り組むにあたり自己の適正や長所と考えられる点を自己推薦書にまとめて提出すること。様式は本専攻ウェブページからダウンロードできる。
- ② **「英語能力試験の成績証明書」**：英語能力は受験者の提出する TOEFL、IELTS、TOEIC のいずれかの公式スコアで評価する（TOEFL の提出を推奨する）。スコアの提出期限は2021年8月13日必着とする。受験期限は定めない。提出するスコアは2019年9月以降に受験したものに限り。各公式スコアの提出方法を以下に示す。

★本学大学院工学系研究科修士課程修了（見込み）者については、英語試験を免除する。

TOEFL	TOEFL iBT、または TOEFL iBT Home Edition の公式スコアを提出する。スコアの提出方法は、工学系研究科が配布する「大学院入学試験外国語(英語)試験について(TOEFL スコア提出)」の指示に従うこと。社会基盤学専攻では” Test Date Scores” を採用します。 (https://www.t.u-tokyo.ac.jp/shared/admission/data/toefl_2022_ver4.pdf)
IELTS	IELTS Academic、または IELTS Indicator の公式スコアの原本を、工学系研究科に「提出書類等」と一緒に提出（アップロードと郵送）すること。 取得が遅れ、公式スコアを上記「提出書類等」と一緒に郵送できない場合は、社会基盤学専攻 入試担当チーム宛に2021年8月13日必着で提出（アップロード ^{*1} と表紙記載の住所に書留郵便で郵送 ^{*2} ）すること。

TOEIC	TOEIC Listening & Reading の公式スコアの原本を、工学系研究科に「提出書類等」と一緒に提出（アップロードと郵送）すること。Institutional Program のスコアも有効である。取得が遅れ、公式スコアを上記「提出書類等」と一緒に郵送できない場合は、社会基盤学専攻 入試担当チーム宛に 2021 年 8 月 13 日必着で提出（アップロード*1 と表紙記載の住所に書留郵便で郵送*2）すること。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

*1: 社会基盤学専攻へのアップロードサイトは当該受験者に別途通知する。*2: 郵送のみ受け付ける。

- ③ 「社会基盤学」で解答する試験分野：筆記試験「社会基盤学」で解答する試験分野を、別表1「「社会基盤学」の試験分野と出題範囲」に示す6分野から1つ選択し、「4. 社会基盤学専攻の受験に必要な追加データの届出」に従って受付期間内に提出すること。提出後の解答分野変更は認めない。
- ④ 希望指導教員：希望する指導教員を、別表2「社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表」から選択し、「3. 指導教員の希望調査と決定」、「4. 社会基盤学専攻の受験に必要な追加データの届出」に従って受付期間内に提出すること。
- ⑤ 推薦者の連絡先：受験者の研究能力を説明する「推薦状」を依頼できる者の連絡先を「4. 社会基盤学専攻の受験に必要な追加データの届出」に従って受付期間内に提出すること。推薦者は受験者の指導教員である必要はない。

2) 第1次入学試験科目と日程

英語試験を除く筆記試験（社会基盤学・専門学術）と口述試験はオンラインで行う。筆記試験は、インターネット上の資料も含め、資料などを閲覧しながら答案を作成することは認める（オープンブック形式）。

オンライン試験中、試験内容について他者と接触・会話・情報交換等を行うことは不正行為とみなす。合格発表後であっても、不正行為の証拠が出てきた場合には合格が取り消される場合もある。

入学試験の科目と試験日程は以下の通りである。オンライン試験会場の URL 等、具体的な試験実施方法については 8 月中旬までにメール等で通知する。なお、試験科目を全て受験することを合格の条件とする。

試験科目	日時	方法	配点	備考
英語	—	—	300 点	TOEFL, IELTS, TOEIC L&R のいずれかの公式スコアを、所定の方法で提出。2021 年 8 月 13 日必着。 英語試験は TOEFL 点数を基準とする（IELTS, TOEIC から TOEFL への換算方法は社会基盤学専攻のウェブページを参照） 本学大学院修士課程修了（見込み）者は、英語試験を免除する。
社会基盤学	2021 年 8 月 30 日(月) 9:00~10:30	オンライン	1000 点	事前に届け出た 1 分野を解答する。 試験当日の選択分野の変更はできない。 8:30 までに online 試験室に入室すること。
専門学術	2021 年 8 月 30 日(月) 11:00~12:30	オンライン	1000 点	希望研究課題に関する理解度を判定する。 上記「社会基盤学」に引き続き受験室で待機すること。

希望指導教員による口述試験	2021年8月30日(月)～9月1日(水) 教員の指定時刻	教員の指定方法	—	受験票を受領後、第1希望の指導教員にメール等で連絡を取り、口述試験の日時、方法について確認すること。
社会基盤学専攻教員による口述試験	2021年8月30日(月)午後(詳細な面接時間は8月26日のオンライン接続テスト時に通知する)	オンライン	—	一人15分程度の面接を行う。社会基盤学専攻博士課程での修学に必要な基礎的な学力、適正、希望する研究分野に関する基礎的な能力、資質について問う。

※ 2021年8月26日(木)13時より、オンライン接続テストを行う。試験当日の流れを説明するため、必ず参加すること。

3) 第2次入学試験(研究発表と質疑)

これまでの研究成果(修士論文研究等)と博士課程での研究計画について、発表と質疑により学術研究能力を評価する。スライド等を用いて発表を行い、質疑も含めて時間は20分程度とする。詳細な実施日程と実施方法は受験者にメール等で通知する。

2. 10月入学について

社会基盤学専攻においては、修士の学位を有する者、および2021年9月30日までに修士の学位を得る見込みの者は、2021年10月の博士後期課程への入学を申請できる。希望者は、東京大学大学院工学系研究科 博士後期課程入学願書の該当欄に記入すること。

3. 指導教員の希望調査と決定

別表2「社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表」から、希望する指導教員を第1希望から最大第3希望まで選び、専攻ウェブページにある「大学院入試(博士後期課程)追加データ入力票」で届け出ること。決定した指導教員は、第2次入学試験後の合格通知と共に、専攻ウェブページで発表する。

4. 社会基盤学専攻の受験に必要な追加データの届出

「東京大学大学院工学系研究科 博士後期課程 学生募集要項」および「1. 選抜方法と日程 1)入学願書と必要書類に提出」に従って、入学願書を含む「提出書類等」および「自己推薦書」「英語能力試験の成績証明」を提出すること。

さらに、専攻ウェブページにある「大学院入試(博士後期課程)追加データ入力票」をオンラインで下記の受付期間内に提出すること。入力票にアクセスできない場合は入試担当チームにメールすること(gsao@civil.t.u-tokyo.ac.jp)。

受付期間：2021年7月1日(木)7:00～7月7日(水)23:59 [日本時間]

<追加データの届出内容>

- ・メールアドレス等：試験に関する通知に使用するので、確実に連絡が取れるものを記入すること。
- ・「社会基盤学」で解答する試験分野：6分野から試験当日に解答する1分野を選択する。
- ・希望指導教員
- ・推薦者の連絡先

5. 過去の入学試験問題の公開

過去の入学試験問題は本専攻ウェブページで公開している。（注：今年度はオンライン試験であるが、各試験分野の出題範囲に変更はない）

入試関連情報ウェブページ

工学系研究科：<https://www.t.u-tokyo.ac.jp/soe/admission/general.html>

社会基盤学専攻：http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/graduate_school/

2022 年度 大学院入試「社会基盤学」の試験分野と出題範囲

試験分野	出題範囲	東京大学工学部 社会基盤学科での 対応する学部講義
分野 1 (構造・設計)	構造力学(はり・柱の力学, エネルギー原理, 安定・不安定問題), 連続体力学の基礎, 構造設計の基礎知識, 構造振動・耐震の基礎知識	構造の力学 構造動力学 構造物の計画と設計
分野 2 (材料・地盤)	フレッシュコンクリートと施工計画, コンクリート構造の力学性能, セメント系材料の水和・若材齢特性・耐久性, コンクリート構造物の維持管理, コンクリート分野における資源管理, 地盤材料の力学(圧密, せん断, 締固め, 透水), 土構造(基礎, 盛土, 擁壁, 掘削, 斜面)	構造物の計画と設計 コンクリート工学 地盤の工学 材料の力学 基盤技術設計論
分野 3 (水圏工学)	静水力学, 質量・運動量保存の法則, ベルヌーイの定理, ポテンシャル流れ, 層流と乱流, 管路・開水路の流れ, 水面波の基礎(微小振幅波理論, 浅海域での規則波の変形, 長周期の波), 河川・海岸計画	基礎流体力学 水理学 海岸工学 水圏デザイン基礎
分野 4 (交通・空間情報)	交通計画, 交通政策, 交通行動分析, 交通経済, 測量学, 地理情報システム, リモートセンシング	交通学 空間情報学 I 空間情報学 II
分野 5 (都市・景観)	現代・近代・近世の都市政策と計画動向, 地域・都市の分析手法の基礎, 都市計画制度と都市設計に関する基礎知識, 景観の操作論と分析・予測・評価, 景観意味論と伝統風景, 土木景観の設計各論	都市学 景観学
分野 6 (国際プロジェクト・マネジメント)	建設プロジェクトマネジメント, 建設産業論, 公共調達制度, 技術者倫理, 政策決定システム, 途上国開発援助に関する基礎知識, 開発経済学の基礎, 社会技術, 社会イノベーション	マネジメント原論 プロジェクトマネジメント 開発とインフラ 社会技術論

2022年度 社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表

別表2

指導教員グループ	基本定員 (最大定員)	指導教員	研究内容
都市と交通	5 (13)	羽藤 英二 教授	都市計画・交通計画
		井料 隆雅 教授 (特定)	ネットワーク交通学
		大口 敬 教授 (生研)	交通制御工学, 交通流解析, 道路幾何構造設計, モビリティ・イノベーション
		鈴木 彰一 准教授 (生研)	交通政策論
		浦田 淳司 講師	交通計画, 避難行動, 防災情報交通学
空間情報	5 (12)	布施 孝志 教授	空間情報学, 地域の動態解析, 計測とシミュレーションの統合, 写真測量, 画像処理, 3次元視覚化
		竹内 渉 教授 (生研)	環境・災害リモートセンシング, 陸域生態系と人間社会の相互作用
		市村 強 教授 (震研)	都市・社会のシミュレーション, computational science, 計算地震工学/地震学, 人工知能と物理シミュレーションの融合
		ラリス ウィジャトネ 准教授 (震研)	計算地震工学, 大規模三次元亀裂伝播解析, 実大スケール経済シミュレーション
		藤田 航平 准教授 (震研)	富岳を用いた超大規模地震シミュレーション, 最先端計算機構の性能を引き出す計算機科学的アルゴリズムの開発
マネジメント	3 (8)	関本 義秀 教授 (空間)	人流シミュレーション, リアルタイム都市モニタリング, データ流通プラットフォーム, デジタル都市デザイン
		堀田 昌英 教授	社会基盤マネジメント, 社会的意思決定論, 公共調達, 事業制度設計, 国際プロジェクトマネジメント
		マエムラ ユウ 講師	コンフリクトと交渉, 開発援助政策, 事業評価, 多文化コミュニケーション
		全 邦釘 特任准教授 (寄付)	ICT/AIを活用したインフラ維持管理, BIM/CIM, i-Construction システム学
		小澤 一雅 特任教授 (寄付)	建設マネジメント, i-Construction システム学, 公共調達制度
デザインと景観	1 (5)	中井 祐 教授	景観論, 公共空間・公共施設のデザインとまちづくり, 近代土木デザイン史
水圏環境	6 (15)	池内 幸司 教授	水関連災害の防災・減災, 水関連災害のリスク評価, 治水計画, 気候変動への適応策, 河川環境の保全・復元, ICT・UAV等を活用した新たな河川管理・危機管理手法, 水と防災に関する政策
		田島 芳満 教授	氾濫のシミュレーションと減災防災, 波と流れ, 海浜変形のモニタリングと予測
		加藤 史訓 教授 (特定)	研究内容: 海岸防災, 海岸構造物, 海岸侵食対策
		芳村 圭 教授 (生研)	水同位体気象学, 地球規模物質循環, 地表面過程, 洪水予測, 力学的ダウンスケーリング
		知花 武佳 准教授	河川生態環境工学, 河川地形学, 河道計画, 流域環境の保全と再生
		下園 武範 准教授	波浪シミュレーション, 底面境界層力学, 土砂輸送と地形変化, 海岸構造物, 海岸防災
		山崎 大 准教授 (生研)	全球地表水動体, 陸域水文モデリング, 地表水衛星観測, 水文地形データ解析
		澤田 洋平 准教授 (総合)	水文気象災害予測, シミュレーション・観測データ統合
		沖 一雄 特任教授 (生研)	広域の水・生態・環境計測, 流域の生態・環境モデリング, 環境保全型流域圏の構築
		川崎 昭如 特任教授 (未来)	水災害と貧困削減, 途上国の防災・流域計画, グローバル・コモンズ
		木口 雅司 特任教授 (未来)	モンスーン気候変動学, 全球水資源評価, 温暖化による降水現象への影響
		吉兼 隆生 特任准教授 (生研)	領域地球システムモデリング, 人工知能を用いた局地気象予測とその応用
		基盤技術と設計 A	4 (10)
桑野 玲子 教授 (生研)	地盤機能保全, 土質試験, 土構造物・地中構造物の長期挙動と維持管理, 地盤陥没, 内部侵食		
渡邊 健治 准教授	耐震性に優れた土構造物の建設・補強法, 土構造物の性能設計・性能施工の高度化, 豪雨や津波による地盤の侵食・洗掘現象の解明, 軟弱支持地盤の補強		
清田 隆 准教授 (生研)	地震・豪雨による地盤災害機構解明と防災への反映, 地盤耐震工学		
基盤技術と設計 B	10 (24)	石原 孟 教授	風と構造物の相互作用, 構造物の信頼性設計と健全性評価, 環境障の数値予測と予測, 洋上風力発電技術の開発
		石田 哲也 教授	セメント系無機複合材料とRC構造のマルチスケール統合解析, セメント系材料の3Dプリンティング技術, データ駆動型維持管理
		岸 利治 教授 (生研)	コンクリートの機構解明と技術開発, マイクロ・ナノ空間中の物理化学, レオロジーと流体の運動, 竣工検査と耐久性検証, ひび割れ自己治癒コンクリート
		長山 智則 准教授	橋梁工学, 構造制御・モニタリング, 構造物や車両の動的モデルと観測データの統合, 荷重評価
		長井 宏平 准教授 (生研)	新セメント系材料の力学特性, RC部材定着機構の解明と設計合理化, 成熟社会におけるインフラ維持管理, インフラ維持管理技術・制度の国際展開
		水谷 司 准教授 (生研)	インフラ表面・内部構造情報の超規模構築, リアルタイム解析, レーダー・レーザースセンシング, 振動工学, デジタル信号処理・画像処理
		酒井 雄也 准教授 (生研)	コンクリート構造物の維持管理, 持続型建設材料, 建設材料のリサイクル
		山口 敦 特任准教授 (社会連携)	リアルタイム風予報, 風況予測と風力発電賦存量推定, 風力発電設備の荷重評価
		蘇 迪 特任准教授	構造物の応答シミュレーション, 交通振動の計測と応答予測, 非接触構造モニタリング手法の開発
		高橋 佑弥 講師	構造コンクリートの耐久性力学, 自然地震-セメント系材料連成系の環境影響評価, 無機複合材料の平衡/非平衡熱力学モデリング
五十嵐 豪 特任講師 (社会連携)	新材料・新構造形式に対する数値解析による構造性能評価, 材料劣化を考慮した数値解析による構造性能評価, 施工・材料品質と長期耐久性性能の評価, 補修材料・工法の耐久性評価		
国際プロジェクト	4 (13)	加藤 浩徳 教授	国際プロジェクト学, 国際交通学, 交通計画, 交通政策
		沖 大幹 教授	地球人間圏学, 水と気候変動と持続可能な開発, 地球環境変動リスク管理
		福田 大輔 教授	スマートシティ/モビリティの数理的計画論, スマートシティ/モビリティの国際標準化戦略, 交通ネットワークの平常時/非平常時における信頼性評価, 復興デザインのためのデータエンジニアリング
		小松崎 俊作 准教授	社会技術論, 公共政策学, 政治過程分析, 社会イノベーションの事例分析
		森川 想 講師	行政学・政策学, 公共政策における協働と協創
		本田 利器 教授 (新領域)	社会的レジリエンス, 社会ネットワーク, 地震工学, 技術移転, 維持管理工学
都市・防災	2 (4)	併任教員: 目黒 公郎 教授, 石田 哲也 教授, 竹内 渉 教授	
		目黒 公郎 教授 (情報/生研)	都市震災軽減工学, 国際防災戦略, 途上国の防災対策, 防災制度設計, 防災計画と防災マニュアル, 構造物の動的破壊解析, リアルタイム地震防災対策, 災害情報システム, 災害時の人間行動
		沼田 宗純 准教授 (情報/生研)	防災プロセス工学, 災害対応論, リーダー人材教育

備考1: ○は兼任教員を表す。兼任教員は社会基盤学専攻に講義の担当などの形で協力するが、原則として社会基盤学専攻の学生の論文指導は行わない。
 備考2: それぞれの教員の本務先は、(生研) 生産技術研究所, (震研) 地震研究所, (新領域) 新領域創成科学研究科, (空間) 空間情報科学研究センター, (未来) 未来ビジョン研究センター, (情報) 情報学環, (総合) 総合研究機構, (社会連携) 社会連携講座, (寄付) 寄付講座, (特定) 特定プロジェクトである。
 備考3: 各グループ内での指導教員は協議のうえ決定されることになる。研究内容は例示であり、学生の研究テーマは入学後に決定される。